

◇舞囃子 花月

花	月	木月	晶子
笛		森田	徳和
小	鼓	飯富	孔明
大	鼓	白坂	信行

◇能 井筒 物着

里女・井筒の女	森本	哲郎
旅	僧	江崎 敬三
笛		森田 徳和
小	鼓	飯富 章宏
大	鼓	白坂 信行
地謡		今村 嘉伸
地謡		今村 一夫
地謡		久保誠一郎
地謡		山口剛一郎
後見		今村 宮子
後見		木月 晶子



九博 夜能

秋夜に舞う幻想的な能の世界

※写真はイメージです。

平成19年12月1日 **土** ●開場 午後5時30分
●開演 午後6時

九州国立博物館ミュージアムホール

福岡県太宰府市石坂4-7-2

定員/250名(事前申込・先着順) **入場無料**
※定員になり次第締切らせていただきます。

古来能楽の公演は朝から昼すぎくらいに行っていたようですが、ある時期から夜に火を灯して行うことが流行りました。野外での夜能では薪を用いたので、薪能と称され近年でも人気の催しです。室内では蠟燭能も盛んに行われていますが、通常の能楽堂やホールでも、夜の公演を夜能として行われています。

主催—九州国立博物館

■お申し込み・お問い合わせ先
九博夜能事務局 / 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-34 住友生命福岡ビル(株)西広内
TEL. 092-711-3114 FAX. 092-731-6109
※申込方法は裏面をご覧ください。

<http://www.kyuhaku.jp>

Kyuhaku **Ya** Noh

夜能



演者
もりもと てつろう
「井筒」シテ **森本 哲郎**
観世流シテ方。
重要無形文化財総合指定。
能楽協会九州支部所属。
由布院夜能他各地で革新的な
演能活動を行っている。

いづつ ぜあみ
能 井筒 物着 ■世阿弥 作

井筒とは筒形になった井戸のこと。この題名から、伊勢物語の有名な一段を思い起こされるであろう。とある名月の夜、旅の僧が在原業平ゆかりの奈良石上の在原寺の旧跡を訪ね、里の女と出会う。女は業平と紀有常の娘の恋物語を語り、自分がその娘であると告げ井筒の陰に隠れるように姿を消す。夜も更け、僧が仮寝をしていると、その夢の中に、彼の女が業平の形見の装束を着けて現れる。女は業平の面影を想いながら、舞重ねる。井筒に自らの姿を映した女はそこに恋しき業平の姿を見出すのだった。

「伊勢物語二十三段」を中心にその恋物語を再現する。男装した紀有常の娘は、井筒の傍で背比べした昔に戻り、また、互いの心を通じ合わせた頃に、それを懐旧する現在にと、時間空間を超越させてみせる。原文には「筒井つもの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざる間に」とある歌を本曲では「筒井筒いづつにかけしまろがたけおいにけらしな妹見ざる間に(またはおいにけるぞや)」と変化させ、主題につないでいる。これも本歌取りの趣向であろう。

能は観る人の感性により、様々な場面を想像させる芸術と言え、その感性が豊かな人ほど感動が深くなる。この「井筒」はその最たるもので、世阿弥最盛期の傑作です。

今日は小書「物着」の演出とします。通常前段の女は舞台から一旦退場し(これを「中入り」という)、後段に男装した紀有常の娘の霊として現れます。その間狂言が解説することになるのですが、この小書では女は中入りせず、舞台上で業平の形見の衣装に着替えます。その間大小鼓が静かに演奏し、後段につながります。

九博夜能

Kyuhaku Ya Noh

秋夜に舞う幻想的な能の世界

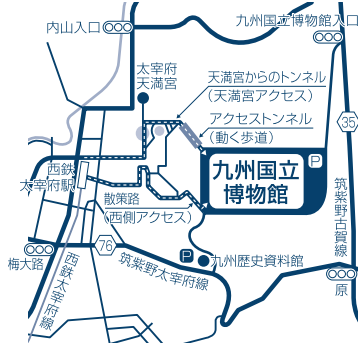
■申込方法

申込者本人の ①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号等を明記のうえ、ハガキ・FAXのいずれかでお申し込みください。先着250名様に入场整理券を郵送いたします。*定員になり次第締切ります。*要事前申し込み

■お申し込み・お問い合わせ先

九博夜能事務局
〒810-0001
福岡市中央区天神2-8-34
住友生命福岡ビル(株)西広 内
TEL.092-711-3114
FAX.092-731-6109

■交通のご案内



駐車場(有料)に限りがあります。ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。

開館一周年記念イベント



演者
きづき あきこ
「花月」シテ **木月 晶子**
観世流シテ方。
能楽協会九州支部所属。叔父木月孚行(たかゆぎ)、父木月達雄に師事。新進の女流能楽師として囑望されている。

まいばやし かけつ
舞囃子 花月

舞囃子とは、能の一節を装束を着けずに演じるものです。筑紫英彦山の麓に住む者が子を失い、出家し廻国の途中、京都清水に参詣する。ここで青年僧花月に会う。花月とは言わば愛称。花月は清水寺の縁起を曲舞にして謡うが、この僧の子であると知れる。彼は七歳の年天狗にさらわれ、諸国をめぐる、京の雲居寺に住居しているのである。親にめぐり合った花月は喜びながら鞆鼓を奏し、これまでの境遇を謡い舞う。親子はめでたく共に郷里へと向かう。ここでは、この鞆鼓を打ち、舞ながらの終局部分を演じます。

九博能演能記録

第1回 九州国立博物館1周年記念
2006年10月16日

「翁」
たゆう
太 夫：山本 章弘
せんざい
千 歳：今村 一夫
さんぼそう よしのぶ
三 番三：茂山 良暢

能「岩船」

シ テ：森本 哲郎
ツ レ：林本 大
ワ キ：坂苗 融

囃子方

笛：森田 徳和、
小 鼓：飯富 章宏、上田 敦史、飯富 孔明
大 鼓：山本 哲也、辻 雅之
太 鼓：田中 達 他

九博夜能 参加申込用紙 (FAX専用)

FAX.092-731-6109

住 所	-----	郵便番号	〒	—
ふりがな	-----	電話番号		
氏 名	-----	FAX番号		
	年 齢	才		